

第1回プログラムのパターンランゲージ・アジア 会議 (AsianPLoP 2010) 開催報告と展望

鷺崎 弘宜[†]

アブストラクト
アジアおよび周辺地域においてソフトウェアや非ソフトウェア分野のパターン、パターンランゲージ、関連技術を議論する会議 AsianPLoP を東京にて 2010 年 3 月に開催した。その様子やパターンの傾向を紹介し、将来の展望について考察する。

Report and Future Prospective on 1st Asian Conference on Pattern Languages of Programs

Hironori Washizaki[†]

Abstract
This paper reports the 1st Asian Conference on Pattern Languages of Programs (AsianPLoP), which was held in Tokyo March 2010. Moreover the paper also discusses its future prospective.

1. 開催経緯

Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP @) とは、パターンの作者と利用者が一堂に会して、主にソフトウェア開発におけるパターンやパターン言語、技術や経験について議論し発展を促す会議である。The Hillside Group[1]が 1994 年に米国で開始して以来、ヨーロッパや南米など世界各地に広がり、知見を共有し発展させる場として定着しつつある。アジア太平洋地域では 00-02 年 Koala PLoP (オーストラリア)、02 年 MensorePLoP (沖縄)、08 年 PLoP-like 会議(インド) が開催されてきたが、近年様々な都合により継続的な会議の場が設けられていなかった。国内の状況としては、99年にコミュニティとして JapanPLoP が活動を開始し、発展的な形として 03 年から現在まで情報処理学会ソフトウェア工学研究会においてパターンワーキンググループ[3]が活動を継続している。

この背景のもと、同ワーキンググループ有志を中心にアジア地域での PLoP 開催の機運が高まり、The Hillside Group はかの支援を受けて 10 年 3 月に第 1 回プログラムのパターンランゲージ・アジア会議 (AsianPLoP 2010) [2]を開催した。

2. AsianPLoP2010 概要

パターンとは、特定の文脈上で頻出の問題と解決を一般化した記述であり、ソフトウェアの設計や、プロ

セス・組織の構成など様々な面で創造性を持って決定指針を与える。また、特定構造への統合規則を伴う場合はパターン言語 (Pattern Languages) と呼ばれる。

AsianPLoP2010 は、アジアおよび周辺地域においてソフトウェアや非ソフトウェア分野に関するパターンやパターンランゲージ、および、関連技術を議論する会議として開催された。各種の基本情報を下記に示す。

- 共催: 国立情報学研究所 GRACE センター、パターンワーキンググループ
- 協賛: ACM 日本支部、日本 XP ユーザーグループ
- 会議委員長: 羽生田栄一 (豆蔵)
- 共同プログラム委員長: 鷺崎弘宜 (早稲田大学)、吉岡信和 (国立情報学研究所)
- 日程: 2010 年 3 月 16-17 日
- 場所: 学術総合センター (GRACE 先端ソフトウェア工学国際シンポジウム併設として開催)
- 参加者: 登録者 56 名中 40 名程度
- 国内訳: 日本、インド 3 名、韓国 3 名、台湾 1 名、アメリカ 3 名、オーストラリア 1 名
- 投稿: 16 編、採択: ライターズワークショップ 13 編、ライティンググループ 3 編
- 予稿集: GRACE Technical Report として発刊済み、ACM Digital Library より post-proceedings を刊行予定

アジア地域から複数の参加があり、全体としても一定数の参加をみたため、アジアおよび関連地域におけるパターンの議論の場として役割を果たしたと考えられる。PLoP の主たる活動は後述のワークショップであ

[†]早稲田大学 Waseda University / 国立情報学研究所
GRACE センター NII GRACE Center

るが、それに加えて下記の活動・イベントを実施した。

(1) 招待講演: Joshua Kerievsky より「A Timeless Way Of Communicating」の講演があった。様々なパターン記述形式 (Pattern Forms) を比較する中で、最終的に Alexander の形式が分かりやすさや有用性等に優れていることの説明があった。パターンの記述や参照にあたり、ともすると形式的な項目群の有無に目をとらわれがちであるなかで、パターンの記述における本質に気がつかされる内容であった。

(2) チュートリアル: Joseph W. Yoder より「Pattern Writing: The Straight Scoop」と題して初学者向けのパターン記述の講習の提供を受けた。

(3) 振り返り・回顧 (Retrospective) : 会議における成功や失敗の気づきを発見し共有するためボード上に、各自が何時でも感じた事柄を付箋紙に記入して時系列に張り出す試みである。付箋紙は、感情に応じて色を分けて見やすいものとした。この方式は、US における PLoP の形式を踏襲したものである。また Closing セッションでは、その結果を踏まえて今後 AsianPLoP はどうあるべきかについて意見が出され、全員で共有することに有効であった。英語と日本語のそれぞれの人々の交流促進、時間的余裕、発表パターンの質の事前のさらなる向上など多数の意見が挙げられた。

(4) ゲーム: PLoP における伝統として、リラックスし参加者同士で打ち解ける機会として、名前覚えジェスチャゲーム等を開催し、おおむね好評であった。

3. レビューと議論の形式

AsianPLoP では PLoP の形式を踏襲し、以下のシェファードリングを通じて洗練され採択されたパターンを、ライターズワークショップにおいて議論した。

(1) シェファードリング

投稿論文にシェファード (羊飼い) がレビューコメントを著者に送付し、著者がコメントを受けて修正するイテレーションを繰り返すことで、論文としての質を高めて、発表に適するように導くプロセスである。今回は 1-2 月にかけて実施され、投稿 16 編中 13 編をライターズワークショップにおける発表として採択した。残り 3 編については質が不十分ながらも議論すべき内容であるため、パターン記述の学習の意味合いの強いライティンググループにおいて取り上げられた。

(2) ライターズワークショップ

以下の手続きからなる集団レビュープロセスである。

1. 著者: 重要な 1~2 箇所を説明
2. 参加者: 長所を指摘
3. 参加者: 改善すべき点を指摘

4. 著者: 不明瞭な指摘について質問

取り上げたパターンの分類を以下に示す (括弧内はライティンググループ)。ソフトウェア系と非ソフトウェア系の双方ともバランス良く取り上げられたことが分かる。また半数については、日本国内におけるパターン活動の普及と発展を考慮し、日本語による投稿を受け付けて日本語により議論した。日本語・英語の違いに関わらず、日本を含めてアジアおよび関連地域から多数の良質のパターンの発表および議論がなされ、著者・参加者全員から良好な感想を得た。

- ソフトウェア・IT 系: 6 編 (2)
 - セキュリティ: 2 編
 - アーキテクチャ, UI 設計, テスト: 2 編 (1)
 - 情報・ネットワークシステム: 1 編 (1)
 - ビジネスプロセス: 1 編
- 非ソフトウェア・IT 系: 7 編 (1)
 - 組織, 教育, イベント: 3 編 (1)
 - 環境, パターン言語そのもの: 2 編
 - 振り返り, 回顧: 2 編

4. 将来の展望

今回、上述のように一定数の投稿および参加を経て、活発な議論とパターンの改訂に一定の成功をみたと考えられる。単純な規則ではないノウハウを記述し、洗練し、共有するパターン活動がソフトウェアならびに非ソフトウェアの様々な業務活動の知識共有発展と成功に不可欠であると考えられる。

継続して開催することで、単なる既知のパターン集の再利用にとどまらず、個人や組織の暗黙知をパターン (ランゲージ) として表出させて共有させるパターン活動の浸透と発展を促すべく、引き続き AsianPLoP が開催されることを期待する。2011 年 3 月に早稲田大学にて第 2 回 AsianPLoP の開催が計画されており、多くの実務家・研究者による積極的なパターンや関連技術・経験の投稿ならびに議論参加を切にお願いしたい。

謝辞: AsianPLoP 2010 を支えていただいたプログラム委員、著者・講演者、参加者、およびスポンサーや会場をはじめ全ての関係者の方々に御礼申し上げます。

参考文献

- 1) The Hillside Group, Inc., <http://hillside.net/>
- 2) Asian Conference on Pattern Languages of Programs, <http://patterns-wg.fuka.info.waseda.ac.jp/asianplop/>
- 3) IPSJ ソフトウェア工学研究会パターンワーキンググループ, <http://patterns-wg.fuka.info.waseda.ac.jp/>